

特 長

1. 内部加熱法であるため昇降温速度の選択範囲が広く、また冷却速度が大きいから繰返し迅速測定が可能である。
2. 電気炉、試料ホルダの工夫によりDTAの高感度化、定量化ベースラインの安定化に成功した。
圧力5000kg/cm²、昇温速度20°C/minにてベースラインのドリフト量は約30μV程度。
3. 異常熱量の定量測定が可能である。

仕 様

測定温度範囲：RT~300°C

加 圧 範 囲：7000kg/cm² 最大

加 圧 方 式：手動油圧ポンプにより液体媒体中に高静水圧を発生させる

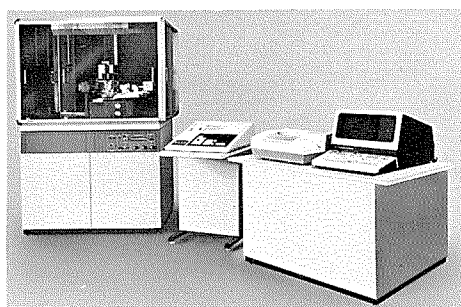
温度検出器：C-A熱電対

試 料 容 器：Pt-Rh 3φ×2H

加 熱 速 度：40°C/min 最大

冷 却 速 度：300°C→100°C 約250sec

新形X線回折装置



当社は新シリーズのマイコン制御によるX線回折装置を開発した。なお、これはさる10月4日～7日東京都立産業会館で行なわれた第17回分析機器展に出品展示され、新しい可能性を証明するものとして反響を呼んだ。新X

線回折装置はマイクロコンピュータを全面的に導入し、従来ハードウェアで固定され煩雑であった測定方法操作方法を、ソフトウェアによる制御に置き替え、より広い自由度と更に単純化した操作性を実現した。あらかじめプログラムされた測定条件や、パラメータをグループとして記憶させ、ファンクションキー、及びテンキーによって自由に選択し、測定を命令しこれを実行させることができるもので通常測定法はもちろん、精密測定、プログラミング測定、積分強度測定等がルーチンワークとして、毎日条件を入れなおす必要がなく、電源を入れ、グループ番号をキーインするだけの単純な操作で実行できます。セットできるグループの数は10個まで指定でき、全てコントロールパネルに集中して操作し結果を得ることができます。又メモリー板の増設によって（オプション）更に複雑な、データ処理が行なえ、従来ミニコンピュータ以上の計算機でしか成し得なかった自動ピークサーチの機能も可能となり、今後測定、目的に応じた種々のデータ処理ソフトの開発とその応用技術の開発が計画されている。上位コンピュータとして、マイクロコンピュータ、ミニコンピュータ、大形コンピュータ等への接続はきわめて簡単となりRS232Cモデムインタフェースをもっていればそのまま接続が可能となっている。したがって上位コンピュータにて直接制御及びデータ処理も効率よく実行できるよう設計されている。又標準オプションとして、図形／文字記録両用のプロッタ（グラフィックプリンタ）上に、回折図形と同時にピーク位置、2θ角度値を記録し、更に各ピークの2θ、I、半価巾まで、プリントしてリストUPいたします。更にCRTディスプレイ装置やデジタルカセットテープデッキも標準オプション化されています。

当社はこの装置をベースに、1.5kW、3kW、12kWタイプのX線発生装置を組み合わせ、シリーズ化を計ると同時に豊富な当社の各種アタッチメントやオプションを含めた新しいX線回折システムを体系化して販売を予定している。尚このシステムは従来販売されたX線回折装置を組み合わせ使用することにより、これを大巾に機能アップさせるよう設計的な用意がなされている。

発行：理学電機株式会社

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-8

瀬川ビル5F 電話(03)295-3311(代表)

編集：理学電機ジャーナル編集委員会

制作：株式会社R・A・P